

## 平成22年度 唐津市立肥前中学校 学校評価総括評価表

<b>1 学校教育目標</b>
①生命や自然を大切に、思いやりと自律心のある生徒の育成 ②健康な体と身体を持ち、意欲的にしっかり学びとる生徒の育成 ③向上心を持ち、自分の夢に向かって挑戦し続ける生徒の育成

<b>2 学校経営ビジョン</b>
<目指す学校像> ○思いやりで満ちた、明るい笑顔の学校                      ○規律正しく整然と落ち着いた学校 ○生徒の個性や能力を鍛える活気あふれる学校 <目指す生徒像> ○明るく元気に挨拶する生徒                      ○人の気持ちになって考える生徒                      ○時間や決まりをきちんと守る生徒 ○よく聞きよく考えて行動する生徒                      ○意欲的に学び根気強く努力する生徒 <目指す教職員像> ○やさしく厳しく人間愛に満ちた教職員                      ○生徒の心に寄り添い一緒に考える教職員 ○研修に励み生徒の能力を伸ばす教職員                      ○地域・保護者の願いに共感し連携する教職員

<b>3 本年度の重点目標</b>	<b>4 前年度の成果と課題</b>
①基本的な生活規律の徹底 ②基礎学力の向上 ③地域に開かれた信頼される学校づくりの推進	マナーアップの取り組み「1明るいあいさつ2元気なへんじ3はきものそろえ4校門一礼」も2年目となり、さらに定着してきた。マナーアップの取り組みにプラスして、小中連携での取り組み「肥前中校区の子どもたちは☆気持ちのよいあいさつをします☆810に取り組みます」も設定し、小中連携の形がみえはじめている。また、中体連大会などの優秀な成績を地域の人に見てもらうための看板の設置や携帯サイトなどにより、情報をより多く発信することができた。学校評価アンケートの意見では、学校に対して好意的な意見が増えている。学力の向上に関しては、まだまだ結果には結びついていない状況である。進路に対する意識を高める取り組みでは、昨年度に引き続き、肥前中学校の先輩である方の講演会を実施することもでき、また、現役の高校生を招いて進路について学習することもできた。また、育友会の学習会の実施や参観日等を増やすことにより、多くの保護者に学校を参観してもらう機会を増やすことができた。小中連携が軌道にのりはじめたので、さらに小中連携を充実したものにし、小中共通した取り組みをすることで、学力の向上や生活面の向上に向け、保護者の協力を得ながら教育活動をしていきたい。また、中学校での取り組みを小学校や保護者にもさらに周知していくために学習面や生活面のきまりなどをひとまとまりにした冊子を配布し活用したい。また、育友会活動を充実させ、保護者との協力関係をより深めていきたい。

<b>5 総括表</b>							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
学校運営	●学校経営方針	学校教育目標及び本年度重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者等への周知を図る。周知率を80%以上にする。 ・「真の肥前中学生になろう」の周知を図る。	A	学校だよりの発行や学校リーフレットの配布ができた。マナーアップの取り組みは保護者等にも周知できている。	・学校だよりを発行する。 ・学校HP、携帯サイトにより周知する。 ・学校リーフレットを作成し配布する。 ・機会がある度に、説明をする。 ・「真の肥前中学生になろう」の説明会を実施する。	・マナーアップの取り組みは3年目でもあり、今年度はさらに周知率が上がった。周知率は上がったが、取り組みが低調になっている。取り組みの工夫が必要である。 ・肥前中のリーフレットの工夫をした。
		地域との連携による生徒指導体制の充実	・月に1回以上、地域との情報交換を行う。 ・年間3回以上、学校を公開する。	A	・地域との情報交換や民生委員会による学校訪問を実施することができた。体育大会、文化祭の参加も多かった。 ・教育講演会の参加は若干少なかった。	・地区民生委員会や青少年健全育成協議会等に参加し、情報を共有化する。 ・年間3回以上、学校を公開する。	・地域との情報交換については、いろいろなご意見を出してもらうなど成果があった。 ・3学期の学校公開については、工夫が必要である。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
	○教職員の 資質向上	教職員の資 質の向上	・教職員の服務規律 の保持 ・授業公開・授業研 究会の実施する。	B	・服務上問題となる ことはなかった。 ・授業公開も行われ たが、回数がやや少 なかった。	・教育公務員としての自覚を 高めるための研修を行う。 ・授業研究会の意見交換会 等により、指導方法の改善を 図る。	・職員の自覚を高めるための研修も できている。 ・来年度は体育の研究発表がある。 体育ばかりでなく、その他の教科の 指導についても充実させたい。
	○事務処理	事務の共同 実施による 事務の効率 化	・学校規模のわりに 多いこの学校の事 務処理量を、共同実 施班の協力を得て、 教育業務を滞らせず に処理する。 ・各手当の認定権が 学校長に委譲された のに伴い、職員の自 己申告・自己申請が 重要であることを周 知する。	B	・時間外勤務をする ことで教育業務を滞 らせずに処理するこ とはなんとかできた。 ・手当申請等で自己 申告・自己申請の重 要さのアピールはま だ不足していたと思 う。	・学校全体における学年会計 事業の適正化に取り組む。 (複数の人が係わることに よる点で、まず、第1段階としては、満 足すべきと思う。 ・各手当認定システムの変更、自己申 告は職員へ会議で周知できた。た だ、真に理解してもらったかはまだ 疑問である	
	○校内の環 境整備	掃除の時間 の充実	・生徒一人一人が意 欲的に掃除に取り組 む学校を目指す。	B	各学年ごとに掃除分 担を行い、学期単位 でとりかまえること ができた。	・掃除の仕方を徹底させる。 ・掃除反省カードの活用。 ・掃除道具、整備を充実させ る。	・各学年で徹底できた。 ・目的をもって掃除を行う取組が必 要である。
	○開かれた 学校づくり	家庭と学校 との連携の 具体化	・懇談会、授業参観 の保護者の出席率 を向上させる。	B	体育大会や文化祭 などの学校行事に参 加が多かった。しか し、授業参観では参 加者が少ない。	・連絡等のプリントが確実に 保護者に届いたか、確認の 返事の回答を確実に集める。 ・育友会本部や専門部・学級 役員へ出席協力を呼びかけ る。(クリアファイル等の利用)	・クリアファイルなどの利用によ って、学校と家庭との連絡は確実 になってきた。 ・育友会の活動として参加の呼びか けを行うことが必要である。
		小中連携の 具体化	・基本的な生活習慣、 学習習慣を形成し、 学力向上を図る。	A	元気のよい挨拶な ど、小中で同じよう に取り組む効果が上 がった。	・小中連絡会の組織を確立し 区内3小学校と中学校が共 通した指導に取り組む。	・小学校との連絡会議を1年間に3 回行い、教育相談や学校生活の参 観を行った。 ・連携する内容を広げていくことが 次段階の課題である。
		情報公開の 充実	・学校ホームページ を充実させアクセス 数を増加させる。 ・携帯メールによる 危機対応・情報提供 の体制を確立する。	B	ホームページ更新 のための講習を受け、 実際に更新をするこ とができた。	・ホームページの更新回数を 増やす。 ・ホームページや携帯メール による情報提供していること を周知する。	更新回数の向上と見やすくするた めの工夫を行う。
	教育活動	●学力向上	学習指導の 充実	・年3回の唐津市の 基礎学力テスト等に おいて市平均到達を 目指す。	B	唐津市の基礎学力 テストは合格者も多 数いるが、学習状況 調査は県の平均に 達していないため。	・全校一斉のスキルタイムを 毎日10分間、帰りの会前に 実施する。 ・授業の終末に確認テストを 行い、学習内容の定着を図 る。 ・基礎基本の定着状況を把握 し、その結果に応じた補充学 習や発展学習を行う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
		学習習慣の形成	・1, 2年は2時間、3年は3時間の学習を習慣づける。	B ・点検表を工夫して作成し、毎日の家庭での学習時間を記入させた。時間が増えた生徒もいたが、変化のない生徒もいたため。	・自主学习ノートを活用し、自主的な学習ができるようにする。 ・810運動(8時から10時は勉強の時間)を推進する。	・家庭学習が増えた生徒もいたが、増えない生徒も多かった。 ・一人ひとりの頑張りへの評価を工夫する必要がある。
	●心の教育	道徳の時間の充実	・生徒の実態に沿った授業実践を行う。	B ・各担任は積極的に資料を駆使して授業をされていたが、その資料を学年別にでも整理しておく良かった。また道徳の時間を話し合い活動にあてたりと効果的に使えないことがあった。	・道徳年間指導計画の工夫改善を行う。 ・生徒の実態に沿った授業実践のための資料収集をする。	・道徳の年間指導計画の見直しや資料収集及び整理が必要である。また、学校にある道徳教科書の活用を呼び掛けた。
	●健康・体づくり	食育の推進	・食の大切さを理解し、実生活に活かせるようにする。	B ・家庭科の授業内では深く扱ったが、それ以外では取り扱いができなかった。	・便りなどを活用して、食の重要性を啓発する。(生徒だけでなく保護者にも)	・学習したことを家庭での話題にしているようだったが、食育便りまでは手が回らなかった。
		健康に対する意識の向上	・自分の体の大切さを知り、規則正しい生活を送るような意識を持たせる。	B ・知識を深めることができたが、自分の生活とつなげて行動変容にまでつなげることはできていなかった。	・保健便りを充実させ、家庭でも理解を深める。 ・健康診断結果を参考にした生活リズムを点検する。	・保健日よりや保健室来室時には情報提供を行い、意識づけを心がけることができた。 ・今後は全体的な保健指導を計画していきたい。
	○人権・同和教育	教職員及び生徒の人権感覚の向上	・思いやりのある、差別を許さない仲間、集団作りに努める。	B ・集団意識、仲間意識は育ってきていると思われるが、まだ十分とは言えない。	・GWTやエンカウンター等を積極的に取り入れた授業・活動を行う。	・積極的に取り入れることができたと思う。扱いやすく新しい題材の提供が課題である。
	○生徒指導	生徒の自主的・自立的な生活意識の向上	・生徒会や保護者との連携を通して、生徒全体の自主的かつ自立的な服装や身なり、生活習慣の向上に努める。	B ・服装や身なり、生活習慣の向上について生徒自身による向上が見られた学年はあったが、限定的であったため。	・学年・全校集会を通してマナーや服装指導を行う。 ・生徒会日常活動と連携して、登下校や生活習慣の向上を図る。 ・保護者との連携を深め生徒の自主性・自立性を育む。	・集会等を通しての指導はできた。保護者・生徒会との連携を通しての活動も行うことができた。ある程度の成果は上げることができたが、限定的な面や周知の不徹底もあり、今後の課題である。
○進路指導	進路希望の達成	・最新の進路情報を提供し、進路意識を持たせる。	B ・進路情報の提供や、進路行事の実施は予定どおりに行ったが、生徒の意識喚起が十分にできなかったため。	・進路コーナーの設置や、高等学校ニュースの掲示を通して、情報提供に努める。 ・高校説明会や卒業生に学ぶ会、地域の人に学ぶ会を実施し、生徒の進路意識を高める。	・進路行事(高校説明会や卒業生に学ぶ会等)への保護者の参加が少ないので、手立てを工夫する必要がある。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
	○特別活動	生徒会活動の充実	・生徒自ら考え、実行できる生徒会活動を行う。	B	・行事は前年通り計画的に行なうことができたが、取り組みに対してのアイデアが少なかった。	・来年度から実践部の減少に伴い、新たな形で生徒会が動いていくため、年間を見通した計画をしっかりと行なっておく必要がある。	
	○部活動	規律ある活動の充実	・体力や精神力を身につけ、責任感や協調性を養う。	B	目標に対して向上させることが概ねできた。主体的に活動するまでには至っていないが、施設や用具の使用と後片付けはまずまずである。	・少ない人数の中で、活動に対しての動機づけを各顧問が頑張った。それに対して生徒たちも頑張っていた。しかしさらに改善の余地はあり、今後の対策が課題である。	
特定課題	●体験活動	肥前町理解の推進	・肥前町に愛着と誇りをもった生徒を育てる。	B	総合的な学習の時間を中心に調べ学習を実施したが、体験がすくなかった。	・1年生の「総合的な学習」でのまとめを壁新聞の形で掲示し、全校生徒に肥前町の良さを紹介する。 ・肥前町出身で活躍されている方の講話を聞く機会を計画し、実施する。	新聞の掲示はできたが発表はできなかったため、検討する必要がある。
	●中1英・数の学習環境の改善充実(少人数、TT指導)	第1学年におけるTT指導の充実	・基本的な学習内容の定着を目指した授業を行う。	B	・生徒に対する2回のアンケート結果をみると「授業に集中することができる」「勉強が楽しくなった」の項目が増加した。	・生徒が理解できていない点や疑問点を把握し、指導法を工夫する。 ・効果的なTT授業となるよう改善を行う。	・唐津市基礎学力テスト(数学)では、平均87.4点合格率8割と効果が出ている。 ・合格できていない生徒の指導が課題である。
	○特別支援教育	全職員による特別支援教育の充実	・特別支援教育について全職員が理解を深める。	B	・生徒の評価は前年度に続き質問の内容を具体的にしたのでAあった。しかし、保護者の理解がまだ十分ではない結果となっている。	・学期に1回、特別に支援を要する生徒について情報交換を行う。 ・校内研修としての講習や事例研究を深める。 ・地域と連携し特別支援学級における作業学習を充実させる。	・3組の活動に関しては「バザー」など目に見える形で伝わっている。通常学級の中での支援について個別の支援計画の作成や抽出しての授業など具体的な動きがあったが職員間の研修と保護者への啓蒙がさらに必要と思われる。

## 6 総合評価

学校評価を一部の職員のみでの取り組みではなく、全職員で取り組むことができた。マナーアップの取り組み「1明るいあいさつ2元気なへんじ3はきものそろえ4校門一礼」も3年目となり、定着はしている。また、小中連携での取り組み「肥前中校区の子どもたちは☆気持ちのよいあいさつをします☆810に取り組みます」の取り組みも2年目となり、小中連携が進んでいる。A評価は少ないが、どの分野においても、それぞれ意識して取り組むことができ、生徒の生活態度が比較的良好であったこともあって、効果が上がった面が多かった。また、「真の肥前中学生になろう」の取り組みも効果的であった。学力の向上に関しては、全国や県の平均にはまだ及ばないが、徐々にではあるが成績は向上している。家庭学習については、生徒向けの講演会を1学期に、保護者向けの講演会を3学期に実施することはできたが、保護者への呼びかけ等については課題が残った。進路に対する意識を高める取り組みでは、肥前中学校の先輩である方の講演会を実施することもでき、また、現役の高校生を招いて進路について学習することもできた。部活動においても優秀な成績を残すことができた。学校評価の学校に対する意見も好意的な意見が多かった。

## 7 次年度への課題・改善策

- ・小中連携の先進校のノウハウを学ぶことができるような研修会を実施し、小中連携をさらに深め、学習面の向上や生活面の向上を目指していきたい。
- ・中学校での取り組みをすべての保護者に伝え、周知していくために、「真の肥前中学生になろう」の有効活用およびの取り組みに関する説明会を実施していきたい。
- ・唐津地区の基礎学力テストやCRTテストについても、効果的な利用について検討し、学力の向上に役立てていきたい。
- ・育友会活動についても活性化し、保護者との協力関係をより深めていきたい。